

ミニ

特集

## キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統)

## 和歌山県におけるキウイフルーツかいよう病の発生

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 かん さ こ まさ のり  
間 佐 古 将 則

## はじめに

和歌山県におけるキウイフルーツの栽培面積は 152 ha で全国シェアの 7% を占める。県内の主な産地は、面積の大きい順から紀の川市 (87 ha)、海南市 (28 ha)、かつらぎ町 (14 ha)、有田川町 (14 ha) である (2016 年市町村別統計検討協議会調べ)。栽培面積は、1990 年の 354 ha をピークに 20 年後の 2010 年には 152 ha まで減少し、その後、近年は横ばいで推移している。

本県で栽培している種類の構成は、ほとんどが「緑色果実品種」である「ヘイワード」(以下:「緑色品種」)の *Actinidia deliciosa* で、黄色系品種「レインボーレッド(紅妃)」(以下:「赤色品種」)等の *A. chinensis* は 10% 未満である。2014 年 4 月、本県の「赤色品種」において枝から赤褐色の樹液漏出が見られ、5 月には葉に褐色斑点が見られた。農業生物資源研究所による同定診断の結果、病原性の強いキウイフルーツかいよう病の Psa3 系統 (*Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* biover3) であることが確認 (澤田ら, 2014; 2015) され、病原菌のまん延防止のために防除対策に取り組んでいる。ここでは、県内の各園地で Psa3 が発生および再発生した内容と、2015~17 年にかけて農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の「かいよう病菌 Psa3 に対して安心してキウイフルーツ生産を可能とする総合対策技術」に参画し、防除対策を行うためのかいよう病菌の樹体内分布の解明について取り組んだ内容を合わせて紹介する。

## I 症状および被害

主な症状として、冬季には結果母枝、枝幹部、枝の分岐部から白濁した樹液が漏出 (芹沢ら, 1989) する。春季の新梢伸長期には伸長中の新梢で黒変や枯死の症状が

見られる (図-1)。主枝、垂主枝、主幹等に赤褐色の樹液漏出跡が見られる。葉に感染すると斑点状に退緑し、その後褐色斑点が見られ (図-2)、花蕾に感染すると褐変する。これら症状の程度は「赤色品種」に比べ「緑色品種」のほうが軽い傾向で、Psa1 系統の発症程度が品種により異なる (三好ら, 2014) のと同様であった。本県では、「赤色品種」の成木と若木、「緑色品種」の若木において赤褐色の樹液漏出が発生し枯死する被害があった。「緑色品種」の成木は葉に褐色斑点が見られ、枯死に至らなかったものの発病葉が増加し未熟な果実を残し



図-1 新梢の黒変と萎れ「赤色品種」

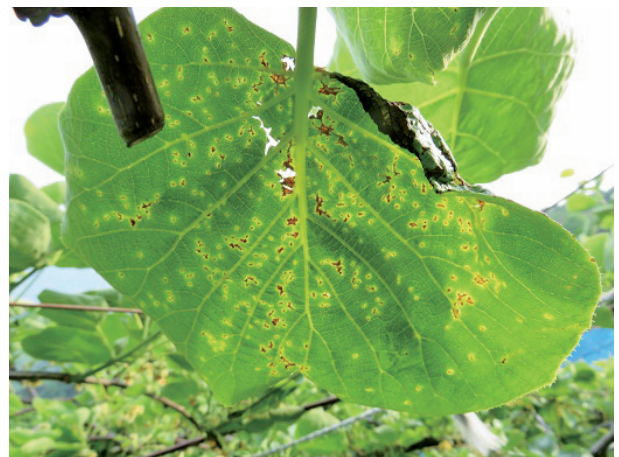


図-2 葉の褐色斑点 (葉裏)「赤色品種」

Occurrence of Bacterial Canker of Kiwifruit Caused by *Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* in Wakayama Prefecture. By Masanori KANSAKO

(キーワード: キウイフルーツ, かいよう病, 和歌山県, 樹体内分布, 切除処理)